

<p>教育目標</p> <p>遊びを楽しみ、心豊かにたくましく生きる子どもの育成</p>	
<p>年度末の最終評価</p>	
自己評価	<p>教育目標の達成状況、次年度に向けた見直し</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前期に培われた『安心感』『楽しさ』をもとに、後期には『一人一人』が自分らしさをさらに発揮するとともに、様々な個性を持つ仲間と『一緒に』遊んだり、生活したりする楽しさや、充実感を味わう姿が多くみられるようになった。 ・また『多様性』に触れる機会が多いことは、本園の特長であるが、その中で、子どもたちが、葛藤も経験しながら、自分に自信を持ち、友達と共感する楽しさを味わうことができた。 ・今後さらに『一人一人の子ども“今”』に寄り添いつつも、次のステップにつながる援助や『夢中になれる・もっとやってみたいと思える環境づくり』の工夫を重ねていきたい。
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンケート結果・子どもたちの様子・行事の取組の様子などから、一人一人の子どもがそれぞれ『自分らしさ』を発揮しつつ、友達との『協同性』が育まれていることを感じた。 ・京極幼稚園の特長である、『多様性を体感し、共に育つ環境』を今後も大切にしていってほしい、地域として、応援していきたい。 ・幼稚園の教育活動の充実に向けて、園はもとより、保護者も積極的に工夫を行っていることがよくわかる。今後、地域としても、さらに積極的に支援していく。

学校関係者評価の評価日・評価者

	評価日	評価者
中間評価	令和7年10月17日	京極幼稚園学校運営協議会
最終評価	令和8年3月5日	京極幼稚園学校運営協議会

(1) 幼稚園教育（保育の改善・充実）について

<p>具体的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・少人数園であること・外国にルーツを持つ子どもが多数在籍すること・地域や近隣の保育園や小学校との連携が密であることなど、本園の特長を生かした保育の充実をめぐる。 ・感情を共有し“伝えたい”“わかりたい”と思う心を育むこと、一人一人の子どもが自分らしさを発揮して前向きに取り組む子どもの育成をめざし、『やってみよう』と感じる環境づくりを行う。 ・子どもの育ちや環境や援助を、エピソードや週案の振り返りなどで記録し、教職員で共有し、さらに工夫を重ねる。
<p>(取組結果を検証する) 各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・週案の反省やエピソードの検討を通して、子どもの姿の変容を見取る。 ・研究保育の協議を通して、子どもの姿の変容を見取る。 ・アンケート

中間評価

	<p>各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・週案の反省やエピソードの検討を通して、子どもの姿の変容を見取る。 担任が作成した週案を基に、園長や他の教員との話し合いを行うことで、活動の意味や一人一人の子どもの育ちや課題、援助について共有することができた。 ・研究保育の協議を通して、子どもの姿の変容を見取る。 前期に、研究保育を2回行い、園外からの指導助言を得ることができ、保育環境や活動の充実を図ることができた。 ・アンケート <p>① 子どもは、幼稚園に親しみを感じ、安心して過ごしている。</p> <p>② 子どもは、幼稚園での遊びや生活を楽しんでいる。</p> <p>《いずれも100%の保護者方が『大変そう思う・そう思う』と回答。》</p>
自己評価	<p>分析（成果と課題）</p> <p>安心感が増してくる中で、一人一人の子どもの『やってみたい』ことを、実現しようという意欲は高まってきている。</p> <p>特に、体を使って、精一杯の力を出しきって遊ぶこと、『もう少し頑張ったらできそう！』なことに挑戦できる環境、どろ・ねんど・すな・みず・えのぐなど『素朴な素材』で十分に遊べる環境を作っていく。</p> <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <p>『安心感』『楽しさ』は園生活の最も大切なことであるので、今後さらに、子どもたちはもちろんのこと、保護者の方々と園が『育ち』やその『過程』について日々共有できる機会を大切にすることで、保護者にとっての『安心感』をさらに高めていけるようにする。</p> <p>（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・週案の反省やエピソードの検討を通して、子どもの姿の変容を見取る。 ・研究保育の協議を通して、子どもの姿の変容を見取る。 ・アンケート
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>園児たちが、先生方にとっても心を開いて、安心感を高めている。</p> <p>様々な体の動きを経験していることが、体を動かすことを楽しむ姿がよくみられた。</p> <p>保護者が安心して子どもを通わせている結果がアンケートに反映されていると思う。</p> <p>多様な経験の一つとして、上京区での合同保育も引き続き行ってほしい</p> <p>12月8日の『京極 EXPO』もPTAと運営協議会の共催とし、応援していきたい。またこの機会を京極幼稚園のことを広く知らせる機会として行ってほしい。</p>

最終評価

<p>（中間評価時に設定した）各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・週案の反省やエピソードの検討を通して、子どもの姿の変容を見取る。 一人一人の子どものその時々だけでなく、学級全体での課題や具体的な援助の在り方について、日々協議を重ねることができた。また、常に子どもの姿として表れた行動だけでなく『なぜそのように行動するのか？』を探ることができた。 このような取組の中で、以前に比べ『レジリエンス』の力や、一つの活動に集中して継続的に取り組んだりする力が高まってきた。 ・研究保育の協議を通して、子どもの姿の変容を見取る。

日常の保育に加え、研究保育ではさらに、園外の参加者からの意見を積極的に受け止め『なぜこのような環境構成をするのか?』『この時の言葉かけは最適だったのか?』など、具体的に保育の在り方を見直すとともに、子ども一人一人の育ちの現状と今後の援助の在り方などについて明らかにすることができた。

・アンケート

① 子どもは、幼稚園に親しみを感じ、安心して過ごしている。

② 子どもは、幼稚園での遊びや生活を楽しんでいる。

《いずれも 100%の保護者方が『大変そう思う・そう思う』と回答。》

自己評価	<p>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <p>・一人一人の子どもが安心・安定感をもって生活するという基盤づくりや、友達とともにいること、互いの持ち味を生かしあうことなどはおおむね達成されたと考えるが、さらに、自分を主張しつつ、周囲の友達の思いも互いに受け入れて生活していく力や、自分で判断して行動する力を育成していきたい。</p>
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <p>・今後さらに、一人一人の持ち味や力が発揮できる環境や活動づくり、『子どもに任せるところ』『大人（教職員や保護者）が共に考えたり援助したりするところ』の見極めなどに努めていきたい。</p>
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>・多様な発達や国籍の子どもたち一人一人を受け入れ、互いに認め合う関係が構築されてきている。・安心感があることで、満足感も味わうことができている。</p> <p>・京極幼稚園として『多様』であることをさらにアピールしてほしい。</p>

（2）架け橋期の教育の充実に向けた幼保小連携・接続に関して

具体的な取組

- ・幼保小で交流についての年間計画やチーム分けを検討、作成する。交流前後の打合せ時には、子ども同士の思い、子どもの姿の読み取りやねらいなどについての共通理解を大切にする。（京極小学校・鶴山保育所） また、交流保育の在り方を考えながら、保幼小の交流保育を進める。（室町小学校）
- ・互いの保育や授業を参観する機会や研究の資料等の共有により、接続に必要な環境や援助を整理し、架け橋期のカリキュラムの検証及び修正を行う。（京極小学校）

（取組結果を検証する）各種指標

- ・年間交流計画の作成や京極、室町小学校との保育、授業を通しての交流。作品展交流や授業参観、懇談会、合同研修会の実施回数。
- ・小学校と連携して行う架け橋期のカリキュラムの検証及び修正の状況。
- ・就学前の情報交換（支援シートもしくは個別の指導計画の活用や引継）。
- ・アンケート

中間評価

各種指標結果

- ・年間交流計画の作成や京極、室町小学校との保育、授業を通しての交流。作品展交流や授業参観、懇談会、合同研修会の実施回数。

	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校と連携して行う架け橋期のカリキュラムの検証及び修正の状況。前期は具体的な取り組みを行ったので、後期に行っていく。 ・就学前の情報交換（支援シートもしくは個別の指導計画の活用や引継）。支援シートは、要望のあった家庭に配布し、後期に小学校へ引継ぎを進める。 ・アンケート⑨ 幼稚園は地域の保育所・小学校・中学校とのつながりを大切にしている。 《96%の保護者方が『大変そう思う・そう思う』と回答。》
自己評価	分析（成果と課題） <ul style="list-style-type: none"> ・全市的に見ても、小学校との交流後の『振り返り』の回数や質、幼稚園の研究保育への小学校教員の参加数や質などは、高く評価されている。 ・来年度以降も、このような取り組みが継続できるような体制の確認を行っていく。
	分析を踏まえた取組の改善 <ul style="list-style-type: none"> ・今後架け橋期のカリキュラムの作成や検証も進めていく。
	（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標 <ul style="list-style-type: none"> ・年間交流計画の作成や京極、室町小学校との保育、授業を通しての交流。作品展交流や授業参観、懇談会、合同研修会の実施回数。 ・小学校と連携して行う架け橋期のカリキュラムの検証及び修正の状況。 ・就学前の情報交換（支援シートもしくは個別の指導計画の活用や引継）。 ・アンケート
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 小学校へ行くこと、交流をすることを繰り返すことで、進学の際の安心感につながる

最終評価

（中間評価時に設定した）各種指標結果 <ul style="list-style-type: none"> ・年間交流計画の作成や京極、室町小学校との保育、授業を通しての交流。 年間交流計画の年度当初に作成し、各校・幼・保の年間行事予定に組み込むことで、交流が『当然行うこと』としてとらえられ、本園園児はもとより、参加した小学生や保育園児また他校の教職員にも育ちが見られた。 ・作品展交流 京極小学校の教職員の見学があったことに加えて、オンライン上に発信することで、見学の時間が取れない教職員にも公開することができた。 ・授業参観、懇談会、合同研修会 年間計画通り実施することができた。さらに室町小学校との交流や京極小学校との給食交流も追加で実施した。特に園児・児童の交流の前後の教職員同士の協議が実施できていることは、全市的にみても評価されている。 ・小学校と連携して行う架け橋期のカリキュラムの検証及び修正・・・鶴山保育所も含めて、各園・校・保の実情に応じて見直し、次年度に向けてのカリキュラムの再構成を行っている。 ・就学前の情報交換（支援シートもしくは個別の指導計画の活用や引継）。 例年通り、文書での申送りにとどまらず、必要に応じて口頭での情報共有や進学後のフォローなども行っていく。

<p>・アンケート</p> <p>⑨ 幼稚園は地域の保育所・小学校・中学校とのつながりを大切にしている。 《100%の保護者方が『大変そう思う・そう思う』と回答。》</p>	
自己評価	<p>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <p>・国や市の進める『架け橋プログラム』の取組は、本園においてはすでに数十年前から行われてきた伝統があり、幼稚園の教育活動の中でもすでに重要なものとして位置づけられている。幼稚園の時期に子どもたちに付けておきたい力（単に進学に向けてだけでなく）を見極めて、保育にさらに積極的に取り入れていく。</p>
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <p>上記の課題を解決していくために、具体的に『自分の持ち物の管理・言葉を集中して聞く・自分で判断する・“困ったとき”にどうするかを考える力』などを遊びや生活の中で育成できるようにしていく。</p>
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>・コロナ以前の交流の回数に戻ってきているのは、大変喜ばしい。</p> <p>・内容も一つ一つ、丁寧に事前・事後の取組をしていることは、今後も続けていってほしい。</p> <p>・子ども同士だけでなく、教職員の交流があることも大切だと感じた。</p>

（3）預かり保育に関して

<p>具体的な取組</p> <p>・一人一人の子どもが安心して参加できるように、教員同士の情報共有を確実かつ丁寧にし、必要に応じて教職員全体で子どもの安全を確保しながら見守るようにする。未就園児の利用を念頭に入れ、特に安全で、充実した時間となるようにする。</p> <p>・異年齢、少人数だからこそできる活動や、語学ボランティアによる読み聞かせや、講師によるサッカー体験やつくって遊ぶ活動、左京図書館とのコラボ体験など、豊かな体験ができるように、特別プログラムも計画する。</p>
<p>（取組結果を検証する）各種指標</p> <p>・教育活動のカリキュラムの作成、事後の振り返り、計画の修正（未就園3歳児の預かり保育を念頭において）。</p> <p>・預かり保育の参加人数。</p> <p>・アンケート</p>

中間評価

<p>各種指標結果</p> <p>・教育活動のカリキュラムの作成、事後の振り返り、計画の修正（未就園3歳児の預かり保育を念頭において）。通常保育と同じような指導計画を作成し、期ごとの見直しを行っている。未就園児3歳児の利用が多くなってきている状況を基に、活動内容や活動の場所などを再構成を行っている。</p> <p>・預かり保育の参加人数。昨年と比べて、利用者・利用時間は増加傾向にある</p> <p>・アンケート⑥ 子どもは、おひさま広場（預かり保育）を楽しんでいる。</p> <p>《ご利用の方の100%の保護者方が『大変そう思う・そう思う』と回答》</p>
<p>自 分析（成果と課題）</p>

已 評 価	京極幼稚園は、今までの地域の方々との連携の成果として、預かり保育の時間に地域の方や団体など様々な方のご協力によって、多様な体験ができる機会がある。このつよみを今後も生かして、さらに内容の充実に努める。
	分析を踏まえた取組の改善 利用する子どもの状況も多様化しているため、一人一人が『落ち着ける』環境の工夫も重ねていく。
	(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標 ・教育活動のカリキュラムの作成、事後の振り返り、計画の修正（未就園3歳児の預かり保育を念頭において）。 ・預かり保育の参加人数。 ・アンケート
学 校 関 係 者 評 価	学校関係者による意見・支援策 引き続き、地域の人的財産を生かして、預かり保育の充実に努めていってほしい。 朝の預かりや保育後の預かりともに利用者が伸びている 保育園と同じ時間利用できることは、とても助かる。 現在もしているが、預かり保育の様子も SNS などですらにアピールをしてほしい。 利用者増のため、環境づくりの工夫をさらに重ねていってほしい（活動の場所の多様化・矢必要に応じての個別化など）

最終評価

	(中間評価時に設定した) 各種指標結果 ・教育活動のカリキュラムの作成、事後の振り返り、計画の修正（未就園3歳児の預かり保育を念頭において）。カリキュラムは学期ごとに見直しを行ってきた。未就園3歳児の利用や利用人数の増加などにより、預かり保育の場の再構成を行った。 ・預かり保育の参加人数・増加傾向がみられる。 ・アンケート⑥ 子どもは、おひさま広場（預かり保育）を楽しんでいる。 《ご利用の方の100%の保護者方が『大変そう思う・そう思う』と回答》
自 己 評 価	分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題 ・園外からの多様な人材による、豊かな経験を提供し、預かり保育においても、子どもたちは、多様な経験をしたり、新たなことに興味を持ったりすることができた。 ・預かり保育が、より「安心」の場となるように、遊びの場の取り方の工夫や、遊具の選定などを行う。
	分析を踏まえた取組の改善 ・預かり保育参加の子どもたちの、それぞれのニーズ（特に1学期）にこたえられるように、環境を整えたり、必要の人員を配置したりできるようにする。
学 校 関 係 者 評 価	学校関係者による意見・支援策 ・京極幼稚園の預かり保育はイベントも豊富で、ここでしかできない体験を積むことが出居ている。今後も地域の人材をさらに活用していってほしい。 ・子育て支援クラス3歳児の利用も増えている。4・5歳児との同制度の利用が進むことを願っている。

(4) 子育ての支援に関して

具体的な取組	<ul style="list-style-type: none"> ・ 0～3歳の未就園の親子のクラス（ひよこ組）、2歳児親子（ぷちうさぎ組）が3歳児クラス（うさぎ組）の子どもや在園児と関わって遊ぶ機会を定期的にもつ。 ・ 未就園3歳児の預かり保育を安全にかつ安心して利用できる計画を作成する。 ・ 在園児の行事等に参加したり、在園児保護者との交流で子育てなどについて話したりする機会をもち、園の保育の雰囲気や良さを感じてもらえるようにする。 ・ 取組の様子をホームページ、チラシ、広報誌等でアピールしたり、小規模保育施設に働きかけたりすることで、より多く参加してもらえるようにし、入園者数増加につなげる。
(取組結果を検証する) 各種指標	<ul style="list-style-type: none"> ・ ほっこり子育てひろば実施時の保護者の思いや意見。 ・ 園庭開放や未就園児保育の利用者（登録者）数。 ・ 未就園3歳児の預かり保育利用人数。

中間評価

各種指標結果	<ul style="list-style-type: none"> ・ ほっこり子育てひろば実施時の保護者の思いや意見。誕生月に偏りがあるため、実施回数は年間4回としているが、クラスや国籍を超えた多様な意見を交わすことができている。 ・ 園庭開放や未就園児保育の利用者（登録者）数。ほぼ昨年並みである。 ・ 未就園3歳児の預かり保育利用人数。利用者数は全員が利用経験ありで、延べ人数や利用時間も多くなってきている
自己評価	分析（成果と課題）
	<ul style="list-style-type: none"> ・ ほっこり子育て広場では、さらに『子育て』の楽しさやたいへんさを共有し、次の日からの保護者の方々のエネルギーアップの一助となるような内容の工夫をする。 ・ 在園児や卒園児保護者の方々の大きなサポートもあり、以前よりも広範囲に「未就園児クラス」の案内を配布することができている。また周辺の『子育て支援施設』への訪問も始めTあことで、子育て支援クラス利用者の数が増えつつある。
	分析を踏まえた取組の改善
<ul style="list-style-type: none"> ・ 未就園児3歳児も『預かり保育』の利用ができることを、さらに広く知らせることで、より多くの家庭が3歳児クラスを利用できるようにしていく。 	
(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標	<ul style="list-style-type: none"> ・ ほっこり子育てひろば実施時の保護者の思いや意見。 ・ 園庭開放や未就園児保育の利用者（登録者）数。 ・ 未就園3歳児の預かり保育利用人数。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今のところで、保護者・園側の地域へのアピールをポスターやチラシなどで行っていると思うがさらに、周辺の子育て支援施設に行つてのアピールをさらに広げていってほしい。

最終評価

<p>(中間評価時に設定した) 各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ほっこり子育てひろば実施時の保護者の思いや意見。 学年を超えた保護者同士のつながりが生まれ、子育てについて日頃『話したい』『共感したい』ということを出し合い共感できる機会となった。 ・園庭開放や未就園児保育の利用者（登録者）数。利用者は昨年と比べて、減少傾向が見られる。 ・未就園3歳児の預かり保育利用人数。昨年と比べ増加傾向が見られる。 	
自己評価	<p>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ほっこり子育て広場は、就労などにより、参加が難しい保護者の数が増加傾向にあるため、開催の仕方に工夫が必要である。 ・未就園児クラスに関しては、引き続き、幅広い施設へのポスターやチラシの配布を続ける。大幅な利用者数の増加の見込みは薄いですが、クラスでの活動の内容の質のさらなる向上や、保護者のニーズにこたえる取組の増加などを行っていききたい。
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ほっこり子育て広場の実施回数や、参加者の割振りなどをさらに柔軟にし、様々な状況の保護者にも参加しやすいものとする。 ・未就園児クラスでは、現在も好評での『言語聴覚士』の方による月1回の気軽に相談できる場に加えて、さらに保護者がまず『ほっこり』とできる活動内容を積極的に取り入れていく。
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インスタグラムなどでの発信も、大変活発に行われている。さらに『フォロワー』を増やしていけるようにしたい。 ・より『参加しやすい』子育て支援クラスを目指してほしい。だれでもが気楽に参加できることをさらにアピールしたり、『チラシ』の配架場所を広げていくサポートを行っていききたい。 ・家庭ではできない経験ができたり、子育ての『悩み』『疑問』を気楽に話せる場となってほしい。

(5) 地域とのかかわり（社会に開かれた教育課程）に関して

<p>具体的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会を核として、さらに地域の環境や人材の活用に努める。 ・教育内容、未就園児教育相談や預かり保育の取組などについて、地域へのチラシ配布やポスター掲示等の協力を依頼し、乳幼児親子が集う場への積極的なアプローチにも努める。 ・地域の高齢者施設や公園での集まりなどへの積極的な交流。 ・KKPでの積極的な情報発信や共有に努め、地域の子どもたちのより良い育ちにつなげる。
<p>(取組結果を検証する) 各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会を中心とした地域の方々の意見。 ・KKP（烏丸中・上京中ブロック保幼小中一貫教育）への参加回数及び教職員との情報共有の有無。 ・アンケート

中間評価

<p>各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会を中心とした地域の方々の意見。⇒本日以降記入 ・KKP（烏丸中・上京中ブロック保幼小中一貫教育）への参加回数及び教職員との情報共有の有無 夏季合同研修やおはよう運動に向けての取組などの中で、ブロックの中での『幼稚園』の役割を
--

<p>果たしている。</p> <p>・アンケート</p> <p>⑨ 幼稚園は地域の保育所・小学校・中学校とのつながりを大切にしている。 《96%の保護者方が『大変そう思う・そう思う』と回答》</p>	
自己評価	<p>分析（成果と課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ・ブロック研修への出席は、他の会合や園の取組などと重なり、すべて出席することは難しい状況であるので、会合の内容により、幼稚園の立場からの意見が必要な時に出席できるようにする ・今後さらに、保護者の方に対して、地域の中での子どもたちの育ちを大切にしていることをお伝えしていく。
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園は主に『室町・京極小学校』との連携を深めることで、KKP とつながりを構築していきたいと考えている。 ・今後さらに、保護者の方に対して、幼稚園では、地域の中での子どもたちの育ちを大切にしていること、またその中での具体的な子どもの育ちの姿をお伝えしていく。
	<p>（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会を中心とした地域の方々の意見。 ・KKP（烏丸中・上京中ブロック保幼小中一貫教育）への参加回数及び教職員との情報共有の有無。 ・アンケート
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>園は地域の方々の協力を得て、運営協議会の意見も反映して進めていっていると感じる。</p> <p>園は地域とのコミュニケーションをよくとっているため、今後とも、続けていってほしい。</p> <p>さらに地域（各種団体）との交流を推進していってほしい。（住民福祉連合会としても応援していく）</p>

最終評価

<p>（中間評価時に設定した）各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会を中心とした地域の方々の意見。 <p>京極地域は、以前からの地域とのつながりを今までと同様に大切にしている。園児が様々な地域とのつながりの中で育っていることが、保護者の方々にも理解されていることがわかる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・KKP（烏丸中・上京中ブロック保幼小中一貫教育）への参加回数及び教職員との情報共有の有無。 <p>学校との日程調整の難しさがあり、全会合に出席することは難しいが、それ以外の日常的な連携を密に行うことができた。（園と小学校の子どもの実態の共有や、個別の子どもとの情報共有など）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンケート⑨ 幼稚園は地域の保育所・小学校・中学校とのつながりを大切にしている。 <p>《100%の保護者方が『大変そう思う・そう思う』と回答》</p>	
自己評価	<p>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・KKP ブロックでの子どもの課題やそれぞれの校園での取組を知ることで、子どもたちの園での育ちや課題を、より多面的に、見通しをもってとらえることができています。

価	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・可能な限り KKP の会合に出席し、この地域に共通の課題やその解決方法などを共に模索できるようにするとともに、さらに日常の情報共有を密に行っていくようにする。
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域とのつながりをさらにインスタグラムやホームページでもアピールしてほしい。 ・園児数増加のため、地域をさらに活用してほしい。

(6) 教職員の働き方改革について

<p>重点目標</p> <p>教職員が心身共に健康で、互いに学び合い、高め合い、相談し合える風通しの良い明るい職場環境づくりをめざし、自らの働き方に関する意識改革を進める。</p>
<p>具体的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出退勤管理システムによる客観的な記録をもとに、よりよい働き方や適切な勤務時間を意識し、問題点について考え、改善策を探る。 ・会議や打ち合わせの精選、効率化を図る。 ・教職員も快適に業務が行えるような環境づくりに努める（資料や物品の整理・配置・室内環境など） ・教職員に様々な勤務の形があり、全員が同じ時間帯にそろうことが難しいが、日頃から声を掛け合い、一人一人が欠かせない存在として認め合い、補い合うチームとして意識を高め、業務にあたる。
<p>(取組結果を検証する) 各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会議や打ち合わせの実施状況。 ・教職員の勤務時間及び年休取得状況。

中間評価

<p>各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会議や打ち合わせの実施状況。 <p>先を見通して内容を精選する、担当者が管理職と事前に相談するなどして、最小限の回数・時間で行えるように、工夫をした。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員の勤務時間及び年休取得状況。 <p>勤務時間はほぼ昨年と同様、短縮の傾向にある。</p> <p>年休取得状況も、昨年同様、各自が必要な時に取得することができている。</p>
<p>自己評価</p> <p>分析（成果と課題）</p> <p>事務的な打ち合わせは文書などで行うことによって、子どもの姿からの内面の理解や具体的な手立てを考えるなどの『話し合い』の時間をより長く持つことができている。</p> <p>勤務時間は、預かり保育が 8 時から 18 時までである中ではあるが、比較的超過勤務は少なくなっている。</p>
<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <p>勤務時間の削減は、教職員の心身ともの健康⇒より充実した保育の実現のために欠かせないものであるため、今後ともそれぞれの時期の『繁忙』の度合いに応じて、メリハリのある働き方を推進していく。</p>

	<p>年度末に近づくとつれて、例年勤務時間が延びる傾向があるため、引き続き、見通しをもって保育や環境の準備をすること、教職員全体で業務を分散させることを心掛ける。</p>
	<p>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会議や打ち合わせの実施状況。 ・教職員の勤務時間及び年休取得状況。
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>今後とも、園の教職員が必要な時に休みことができ、健康的に勤務（保育）できるように援助していく。</p>

最終評価

	<p>(中間評価時に設定した) 各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会議や打ち合わせの実施状況。 <p>前期に比べて、後期は様々な行事などの取組が多くなる時期ではあるが、会議の精選や、担当者による事前準備などを行うことで、会議の回数や時間は減少している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員の勤務時間及び年休取得状況。 <p>超過勤務は減少している。年休取得は増加している。</p>
自己評価	<p>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <p>多くの教職員の配置がある中で、業務の振分けが順調に進みつつある。</p> <p>次年度のデータをもとに、必要に応じて改善していくことによって、業務の時間短縮を図り、保育の充実につながっている。</p>
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <p>過去のデータの活用や見やすい分類方法の工夫、AI技術の活用など、さらに進めていく。</p>
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者の方々や地域の方々の協力もさらに積極的に得ることで、教職員が保育のさらなる充実に向かえるような状況にしてほしい。 ・園児はもちろん、教職員もとても楽しく保育をしていることがよくわかる。このことにより保護者も充実している様子がうかがえる。 ・ICT技術も適宜使用し、業務の効率化を図っている姿勢を今後も続けてほしい。